

砂礫移動モニタリング

地中無線通信システム

砂礫が何処へ移動したか、追跡するシステム
地中無線通信技術により、
水中・砂礫中・河床下でも探知可能

- ◆ 洪水後の河床砂礫(トレーサ発信器)移動地点探知が可能です。
- ◆ 河床変動など土砂移動実態の的確な把握に貢献！
- ◆ 土砂管理及び数値解析手段の精度向上に貢献！
- ◆ 積雪、降雨、霧の中及び植生の影響なく探知が可能です。
- ◆ 探知器検出範囲は半径10m位まで可能です。
- ◆ 設置位置から5km以上下流で、また、河床に1m以上埋没したトレーサを探知した実績もあります。



礫追跡トレーサの例



探知されたトレーサ



可搬型探知器による探査



特徴

- ◆ 低周波磁界を用いた地中無線通信技術の応用。
- ◆ それぞれのトレーサに個別のIDを割り振り識別可能。
- ◆ トレーサが移動してから2ヶ月間発信可能。
- ◆ 可搬型探知器で検出することでトレーサの種類・位置を確認。